



学習につまずきのある児童に対して、どのような手立てや支援を行っているのですか？ また、学校全体として、どのように取り組んでいますか？



東城小では、児童の実態をもとにつまずきの要因を分析し、それに対する手立てや支援を考えています。その1つを紹介するよ！

二年生児童 国語科の取組

取組前

児童の実態

- ・大切なことがどこに書かれているのかを読み取ることが難しい。
- ・自分の書きたいことを文に表すことが難しい。
- ・授業中に意欲的に学習に参加できていない時が多い。

つまずきの要因

- ・平仮名(拗音, 促音), 片仮名, 漢字の定着が不十分である。
- ・語彙が少ない。



取組

目標
自分の力で読み書きをすることができる。

授業の取組

- 語彙の獲得
 - ・動作化を通してイメージをふくらませる。
 - ・似た意味の言葉を考えたり, 他の言葉に置き換えたりする。
 - ・実物を見せる。

放課後学習の取組

- 片仮名カード
- 漢字カード
- 予習(音読)
- お楽しみゲーム(学習ゲーム)
- 頑張りカードの活用

つまずきに対する手立てや支援

取組後

成果

- ・平仮名や片仮名, 漢字が定着してきており, 自分の力で読み取ったり, ワークシートに記入をしたり, 問題を解いたりすることができるようになってきた。そのため, 意欲的に学習に取り組めるようになった。
- ・誤字脱字はあるものの, 自分の書きたいことを短い文章(4文程度)で表すことができるようになってきた。

授業中や放課後に勉強を頑張って続けたからできるようになったと思います。分からないことが分かるようになってうれしいです。放課後の勉強では, まだ習っていないことを先にしているから, 勉強がよく分かってきました。授業中には, 前よりも発表できるようになったし, 自分で書けるようになってきました。もっと勉強してレベルアップしたいです。



<フォローアップ対象児童>



<放課後学習担当教師>

放課後学習頑張りカードに, その日に頑張ったことを全て記入してシールを貼ることで, 自分が頑張った足跡が分かるようにしました。特に, 予習で音読をすることで自信やワクワク感をもつことができ, 授業に参加する意欲を高めることができました。



3年間「学力フォローアップ校の取組」を行うことで, 児童のつまずきの要因を考えることの大切さが分かりました。つまずきの要因をもとに職員全体で手立てや支援を考えることで, 多くの手立てや支援があることが分かり, 児童の理解に応じて準備をすることができるようになりました。また, 他学年との学習のつながりを考えて指導を行うことを意識するようになりました。



<担任>

授業づくりのサイクル

個別の指導計画作成
児童の実態の共有
つまずきの要因分析

手立てや支援を考える

日々の授業実施
研究授業

- ・手立てや支援の実施
- ・児童の見取り

手立てや支援の検証

- ・授業についての授業者の振り返り
- ・授業記録
- ・同僚との対話
- ・教材に関する情報交換
- ・知識の共有
- ・事後研修での協議

教師の理解の深まり

その他の実践事例, 学習指導案をホームページに掲載しています。下記アドレスまたはQRコードよりアクセスしてください。



<http://www.syobara-tojo-e.hiroshima-c.ed.jp/>



授業研究では, 全職員で事前に児童の実態を共有することで, 多面的な分析となり, 手立てや支援を検討することができます。そして, 担任がその児童にとって最適な手立てや支援を実行していきます。



具体的な手立てや支援を行った場合は, 記録に残したり職員同士で相談をしたりして, 次の授業に活かしていきます。